

独立行政法人国立美術館 東京国立近代美術館

令和 5 年 7 月 14 日
北の丸公園の利用の在り方に関する検討会

使命・役割
 東京国立近代美術館では、19世紀末から今日まで100年を超える日本と海外の美術、工芸に関する作品その他の資料を収集・保管し、鑑賞機会を提供して、あわせてこれに関連する調査研究及び各種事業を行う。

施設概要 (本館)
 ○竣工 昭和44(1969)年建設
 ○設計 谷口吉郎
 ○土地 敷地面積：6,107㎡ (環境省)
 ○建物 構造規模：鉄筋コンクリート造 地上4階、地下1階
 建物面積：4,511.62㎡
 延床面積：17,192.6㎡ (展示スペース4,459.0㎡、
 収蔵スペース1,337.8㎡、その他11,395.8㎡)
 ライブラリー、レストラン、ミュージアムショップ含む



様々な事業展開のもと、 国立美術館の更なる発展を目指す

令和5(2023)年
 (独) 国立美術館
 国立アトリサーチセンター
 を本部に設置

平成13(2001)年
 (独) 国立美術館本部設置
 増改築竣工

平成11(1999)年
 築30年を契機に
 増改築工事を開始

昭和44(1969)年
 北の丸公園に東京国立近代
 美術館が開館

皇居周辺北の丸地区の整備について
 (昭和41年1月11日閣議了解)
 国立公文書館及び近代美術館以外の建設物の
 設置は、一切認めない

施設概要 (分室)
 ○建設年 明治43(1910)年
 ○土地 敷地面積：4,512.72㎡ (環境省)
 ○建物 構造規模：煉瓦造 地上2階
 建物面積：929㎡
 延床面積：1,858㎡
 ○その他 国指定重要文化財 (建造物)

昭和52(1977)年
 北の丸公園内の旧近衛師団
 司令部庁舎に東京国立近代
 美術館工芸館が開館



皇居周辺北の丸地区の整備について
 (昭和47年9月12日閣議了解)
 旧近衛師団司令部の建設物は、重要文化財に
 指定のうえ、東京国立近代美術館分室として、
 その活用をはかる

経緯
 京橋の旧日活本社ビルからの移転新築構想が始動。
 複数の建設候補地の中から、ブリヂストンタイヤ株式会
 社石橋正二郎氏が北の丸公園への移転を条件に、建物の
 新築、寄贈の意向を表明。

昭和27(1952)年
 国立近代美術館設置

特徴的な取組

○所蔵作品展（MOMAT Collection）

国内最大級の規模を誇る約13,000点の近現代美術の作品を有し、そのうち約200点～250点の作品を年に約5回の展示替えを行いながら常時展示している。

○企画展（令和4年度実績）

来館者数

①没後50年 鏑木清方展	61,750人 (75,341人)
②ゲルハルト・リヒター展	138,831人
③大竹伸朗展	76,470人
④東京国立近代美術館70周年記念展 重要文化財の秘密	25,014人 (142,071人)

※括弧内は年度をまたいだ通期での来館者数

○所蔵品ガイド

所蔵作品展で毎日実施している対話鑑賞。令和5年5月23日で20周年を迎えた。最大の特徴は、ガイドスタッフを案内役に、作品を自由に感じ、想像をめぐらせ、それを言葉にして語り合う**参加者主体の鑑賞プログラム**であること。

○季節に応じた全館イベント

<美術館の春まつり>

桜の開花に合わせた毎年恒例のイベント。当館の強みである「所蔵作品の魅力」と「立地の特徴」を活かす取組として国内外にPR。

<MOMATサマーフェス>

展覧会を中心に子ども向けの鑑賞プログラムや夜の対話鑑賞イベント（フライデー・ナイトトーク）のほか、昼はカフェ・夜はビアバーとして飲食を楽しめる空間をテラスに演出。**夜間開館PR**も含め**若年層・ファミリー層の来館促進**を図る。

所蔵作品の魅力

重要文化財《行く春》を含む日本の春や桜を描いた作品も多数所蔵



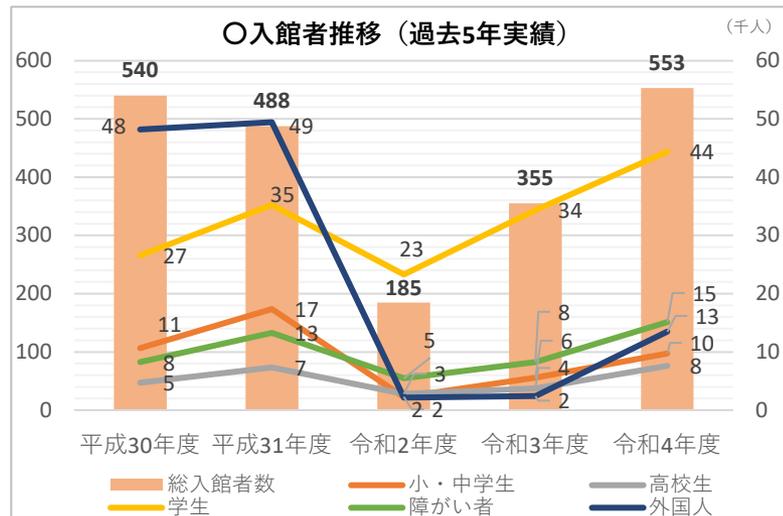
立地の特徴

東京駅からアクセスでき、皇居や桜の名所である千鳥ヶ淵に近い



- ✓多言語対応（常時）
- ・館内の挨拶文、作家作品名、出品リストを日英中韓対応
- ・アプリで日英中韓の作品解説

○入館者推移（過去5年実績）



所蔵品ガイドの様子



北の丸公園南側の玄関口 東京国立近代美術館の魅力向上に向けた課題

<ハード>

○本館（築54年）

- ・施設・設備の老朽化、狭隘化（収蔵庫及び展示スペース）、陳腐化
- ・ショップ、休憩スペースの不足

○旧工芸館（築113年）

- ・重要文化財建造物の経年劣化の進行
- ・空調設備の老朽化（昭和52(1977)年設置)



<ソフト>

- ・関係省庁等との協議（環境省、文化庁、東京都、千代田区）
- ・近隣施設との連携（国立公文書館、丸紅ギャラリー等）
- ・大手町、丸の内、有楽町（大丸有）地区からの回遊性の向上
- ・財源確保

東京国立近代美術館分室（旧工芸館）の活用について

旧工芸館は、国立アトリサーチセンターの事務所として活用する予定であったが、空調設備や広さ等の問題により、同センターは新たなオフィス（九段下駅直結北の丸スクエア内）での活動を決定した。そのため、同館の今後の活用については、有識者の意見も踏まえながら新たな活用方針を検討し、文化財保存活用計画の策定を進め、広く開かれた施設運営を目指し、北の丸地区の活性化を図る。

